1 日時

令和6年12月20日（金）10時00分～12時00分

2 出席者（敬称略）

(1) 委員

山崎（会長）、朝比奈（副会長）、高木（副会長）、芦田、石井仁美、岡部、佐藤、田邊、石井なお子、森田、岩崎、永井、鎌田、日比谷、田中、山本、西野、小泉、坪井、徳江、千葉、小松

（欠席：久保、田上）

(2) 地域生活支援拠点等コーディネーター

山田、久野、橘

(3) 市職員

障がい者支援課 加藤、丸島、夏見、山内、小澤、田口

発達支援課 内池、大塚

3 傍聴者

6名

4 内容（敬称略）

事務局： 定刻になりましたので、始めさせていただきます。

（丸島） 今回から新たに委員として加わった方がいらっしゃいますので、時間の関係上、事務局からご紹介させていただきます。

長坂昌宗委員に代わりまして、芦田真伍委員、石原めぐみ委員に代わりまして、石井仁美委員、圓山祐生委員に代わりまして、田邊勝委員、水野庸子委員に代わりまして、石井なお子委員、西村拓士委員に代わりまして、鎌田成泰委員、藤田敏之委員に代わりまして、日比谷美代子委員、植野圭哉委員に代わりまして、田中大三委員、谷藤利子委員に代わりまして、西野亘委員、松永義昭委員に代わりまして、坪井幸恵委員、杉浦望委員に代わりまして、小松秋津委員、以上10名の方が令和6年度から新たに委員になられております。

また、先日行いました幹事会において、今回は市川市地域生活支援拠点等コーディネーターにもご出席いただいておりますので、ということになりましたため、本日は、議題(3)の生活支援部会からの報告に関連して、地域生活支援

拠点等コーディネーターの身体障がい担当の山田様、知的障がい担当の久野様、精神障がい担当の橘様にも、ご出席をいただいております。よろしくお願いいたします。

それでは、会議に入りたいと思います。初めに、会長、副会長の選任のための仮議長を決めさせていただきたいのですが、仮議長は、障がい者支援課長が務めさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

: (異議なし)

事務局 (丸島) では、加藤課長、仮議長席へお願いします。

仮議長 : 仮議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、会議につきましては、「市川市審議会等の会議の公開に関する指針」により、原則公開となっております。事務局からは、本日の議題の中では、非公開とする内容は含まれていないと伺っております。本日の会議を公開するかどうかは、すべての議題の審議に先立って決定することとなっておりますが、本日の会議はすべて公開としてよろしいでしょうか。

: (異議なし)

仮議長 : それでは、本日の会議は公開といたします。では、本日傍聴希望の方がいらっしゃれば、ご入室いただきたいと思います。

: (傍聴者が入室)

議題(1) 会長・副会長の選任

仮議長 : それでは、議題(1)、「会長・副会長の選任」を行います。これまでのやり方にならい、互選にて決めさせていただきたいと思いますが、どなたかご推薦はございますでしょうか。

芦田 : 引き続き、会長には山崎さん、副会長には朝比奈さん、高木さんが適任ではないでしょうか。

仮議長 : 会長に山崎様、副会長に朝比奈様、高木様ということで、ご推薦いただきました。他にどなたかございますでしょうか。なければ、会長に山崎様、副会長に朝比奈様、高木様ということで、よろしいでしょうか。

: (異議なし)

仮議長 : それでは、会長は山崎様、副会長は朝比奈様、高木様にお願いすることと致します。お手数ですが、山崎会長、朝比奈副会長、高木副会長には、会長席、副会長席にお移りいただければと思います。ここからの進行は、山崎会長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

議題(2) 連絡・報告事項

会長 : 皆さんどうぞよろしくお願いいたします。
それでは、議題(2)、「連絡・報告事項」について、所管課よりお願いします。

丸島 : では、障がい者支援課から、連絡・報告事項として、「移動支援事業のオンライン意見交換会」についてお時間をいただきます。

お配りした冊子 3 ページをご覧ください。

医療的ケア児の支援強化のため、移動支援事業の医療的ケア児の通学にかかる支援要件について、当課では令和 5 年度から検討を続けてまいりました。

生活支援部会及び相談支援部会において、移動支援基準案を配布し、意見を募ったところ、移動支援全体の見直が必要とのご指摘をいただき、直接ご意見を伺う場として、意見交換会が開催されました。

意見交換会は 2 回にわたり開催され、延べ 27 名の方々に参加いただきました。お忙しい中、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

参加者は、事業者の方が中心でしたが、利用者、ご家族の方は少数にとどまりました。

主なご意見は、資料の 3 ページに簡単に記載しております。

お時間の都合上、いただいたご意見のうちいくつかを紹介させていただきます。

ます。

対象者については、身体障害者の要件を、上肢のみ、下肢のみなど、拡大できないか、また、重度訪問介護、同行援護の支給決定を受けている人も対象に含めるべき、という意見、事業対象となる外出の範囲については、障害福祉サービス事業所、生活介護などへの通所についても対象とすべき、という意見、行動援護とのすみわけをして、より多くの人移動支援をつかってほしいという意見、身体介護の有無による区分をなくし、一律の単価設定としてはどうかという意見がありました。

重度の障害をおもちのお子さんのご家族からは、兄弟の対応が必要なとき、そして親の事情などで、そのお子さんに対応できないときに、登下校含めて移動支援を使いたい、とのご意見をいただきました。

事業者に関するものとしては、訪問系サービス事業所以外にも要件を広げられないか、という意見、ヘルパー確保が大きな課題であるので、その対策に市全体で取り組んでほしい、という意見、車での移動をとまなう支援の場合、運転手も報酬で評価できないか、という意見がありました。

これは、事業者に関するものとは限定できませんが、報酬については、見直しをしてほしいとの意見がありました。

これらに加え、資料には記載していない内容ですが、グループ支援に関しても、多くの意見をいただきました。例えば、事業所数が限られる中、グループ支援を利用し、外出支援を受けられる人が増えるのではないかと、というご意見をいただきました。

特に、新人ヘルパーの育成の機会としての活用が期待されるとの指摘もいただきました。

これらの意見を踏まえ、令和7年度に向けた検討を進めるとともに部会や、自立支援協議会の関連会議などで随時報告させていただきたいと考えています。

また、追加の報告として、来年1月に、「精神障害者にも対応した地域包括支援ケアシステム推進協議会」を開催する予定です。この協議会は、主に自立支援協議会の生活支援部会、相談支援部会の協力を得て実施します。この協議会についても、随時報告させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会長 : 何かご質問などございますか。

(質問なし)

議題(3) 各部会等の状況について

会長 : では、議題(3)、「各部会等の状況について」、まずは相談支援部会からお願いいたします。

石井仁美 : 相談支援部会、関連会議の取組については、記載のとおりです。次に 5 ページにある、相談支援部会の議題となったことは、①の暮らしの場支援会議についてです。この対象となる強度行動障害の方については、市で選考するのではなく、広く相談支援専門員にも相談できると周知してほしいという依頼をしました。②の医師の意見書については、障害支援区分を出すときに医師の意見書が必要になるが、知的障害の方について、かかりつけ医がいない方が結構いらっしゃるので、IS-net から課題として挙げたところ、医師会と相談してはという助言があり、医師会から、障がい者支援課に相談するということになり、市と医師会で話をしている最中です。③の障害児相談支援のセルフプラン率の高さについては、4月から研修構想を考えていまして、来年 2~3 月に研修会を開催する予定です。1 日目は、高木准教授や他の方から、相談支援の必要性やビジネスモデルについて話をしていただき、管理者やスタッフの方に参加してもらいたいと思います。2 日目は、計画相談支援や障害児相談支援を利用しているご家族から話をしてもらい、相談支援を使ってよかった点を話していただきます。その後グループワークを予定しています。④の 1 月の相談支援部会では、今年も昨年度同様に相談支援従事者現任研修のインターバル研修見学者を受け入れる予定です。

会長 : ご質問は最後にまとめてお伺いしたいと思います。次に、生活支援部会からお願いします。併せて、地域生活支援拠点等コーディネーターからもお願いします。

芦田 : (生活支援部会)

資料は 7 ページ以降になります。生活支援部会については、事業の幅や議論の幅が広く、サービスの受け皿の議論がされています。関連会議の活動が活発なので、関連会議については他の委員から報告させていただきます。まず共通の課題としては、人材不足であること、支援力の向上、地域のつながりの強化がポイントだと思っています。障がいではなく事業で切り分けたときに、ネットワークが十分でない事業所もあるかなと感じています。居宅系サービスの連絡会やショートステイの連絡会、地域活動支援センターのネッ

トワーク化も必要と思っています。生活支援部会としては 5 つの点について協議しました。1 つ目は、日中サービス支援型グループホームのことです。市内ではないのですが、不正に関する報道がでました。生活支援部会としての意見を市とも交換しました。2 つ目は、移動支援についてです。生活支援部会で意見交換し、オンライン意見交換会も実施しました。3 つ目は、日中サービス支援型グループホームの評価のこと。4 つ目は、地域生活支援拠点等に関する意見交換を行いました。5 つ目は、ソナエプロジェクトからの報告も生活支援部会として受けています。目標については記載のとおりです。8 ページの課題を整理すると、人材不足の取組はまだまだできていないと思います。支援力向上については勉強会などを進め、仕組みづくりを行っています。また地域のつながり強化は、つながり交流研修を通して行っており、就労支援部会とも合同で実施しています。各障がいについてですが、精神障がいについてはこれから市の協議の場が始まるということで、今後議論が高まるかなと考えています。行動障がいの支援については、日中活動連絡会を中心に横の取組も強化していければと思います。高次脳機能障がいについては、高次脳サポート会議にて事業所の紹介などを行っています。居宅介護については事業所の再ネットワーク化が必要かなと思い、その取組を進めていけたらと思っています。短期入所と地域活動支援センターは協議の場が必要かなと思っています。8050 問題のことはソナエプロジェクト、知的障がいの方をグループホームへつなげるプロジェクトを行っています。

他部会等に求めることは、市内共通の課題である人材確保、育成の取組を協議会として始めていいのではと感じています。人材確保ができないと事業所が増えていかないので、事業所も疲弊していくと思います。そのため、具体的な取組が必要と感じています。まだないネットワークは協議が必要と感じていますが、生活支援部会ではキャパオーバーではないかを感じているため、進め方について議論があってもいいかなと感じています。9 ページのつながり交流研修の実施報告については、55 名、39 事業所、30 法人が参加していただきました。他の事業所と話す機会がないという意見があって、こういう企画があるといいと感じたので、定期的にこのようなイベントを続けていけたらと思っています。

次は、重症心身障がい児者・医療的ケア児等サポート会議から報告をよろしく願いいたします。

永井 : (重症心身障がい児者・医療的ケア児等サポート会議)

13 ページをご覧ください。重症心身障がい児者・医療的ケア児等サポート会議は、今年度より医療的ケア児等サポート会議と統合しました。取組に

については、資料①の学校卒業後の施設等サービス利用の確保です。こちらは障がい者施設課の調査をもとに通う先の確保をしています。今年度の市内通所希望はなく、来年度は小学部まで確認することになっています。

資料②aの重症心身障がい児者と医療的ケア児の受入れ先がない問題は変わっていません。

資料②bの人材確保については、喀痰吸引の3号研修の受講を進めていけたらということで、今年度から市の補助金が創設され、研修受講が進んでいます。

資料②dの移動支援については、障がい者支援課より移動支援事業の見直しについて意見交換の場をいただき、会議の方からは通学時の利用の話があり、医療的ケア児の方が、スクールバスに乗れず、自家用車で通学しているということで、送迎に関する要件についても検討してほしいと意見ができました。またその際喀痰吸引ができる看護師などが必要であり、派遣した場合の加算をつけてほしいという意見もできました。資料③aについては、市川市の障害者等緊急時受入施設入所支援事業補助金について、体験利用時にも補助をしてほしいという意見があるが市から難しいという回答を得ています。資料④については、明日千葉商科大学でマナフェス2024を開催します。会議メンバーを中心に計画し、今年で2回目を迎えます。今後も毎年継続していきたいと考えています。資料⑤については、10月17日に市川市における医療的ケア児の緊急対応の事例検討会を開催しました。昨年度は大人と子ども両方で実施しましたが、お子さんのサービスがないという意見があり、今回は子どものことを中心としたものとして開催し、45名の方が参加されました。最後に相互理解の機会として、緊急時の対応をグループワーク形式で実施し、夜間の行政機関との連絡体制や24時間対応のホットラインを整え、緊急時に備えていけたらという意見ができました。

岩崎 : (グループホーム連絡協議会)

グループホーム連絡協議会の資料はないですが、簡単に説明させていただきます。グループホーム支援ワーカーは今年度から2人体制となっています。今年度の流れとしては、ソナエプロジェクトの第一弾として市川大野に男性10人、女性10人の日中サービス支援型のグループホームができました。生活介護に通っている方、親亡き後の8050問題に不安のある方を優先的に受け入れていただき、現在16人が入居しています。課題も見えてきていて、株式会社が運営しているため、支援力の不安があるとご家族から話が出ています。その点については、一路会やいちばん星がサポートをしています

ので、不安を取り除けているかなという印象です。また、8050 問題、40 歳以上の方を対象にしていますが、100 人以上が不安を感じているということで、ソナエプロジェクトの第二弾として進んでいて、来年3月に、市川昇高校の隣に男性5人、女性4人の強度行動障がいの方が入居できるグループホームの開設の計画が進んでいます。そのあと、第三弾として市川の SHOPS の裏にグループホームの開設の計画があり、ソナエプロジェクトに参加してほしいという誘いをしているところです。

芦田 次 に日中活動連絡会から報告をお願いします。

森田 : (日中活動連絡会)

日中活動連絡会は令和5、6年に関して、強度行動障がいの支援者のスキルアップの取組を進めています。強度行動障がいの研修の中でとても効果を上げているのが、千葉県強度行動障がいのある方の支援者に対する研修（通称16人研修）です。CASが主催しているものになります。16人研修修了者と繋がろうということで、まずは市内で繋がれるようにして、その他に研修にも出られないという人とも少しでも繋がれる場が作れたらと思っています。令和6年度は16人研修修了者の咲楽苑、かしわい苑、やまぶき園、ぽらりすの従業者4名に協力してもらい、事例は第1レンコンの家に出してもらって、事例を通して学び合う企画を行っています。研修の内容は、第1レンコンの家について応用行動分析の基礎を勉強して、その後16人研修の受講者が事業所に出向いて事例検討をしていくという流れでやっています。その後研修の中で学んだことを活かして支援の仕方を工夫し、現場が少しずつ改善されていると報告を受けています。今後も支援者が学びながらスキルを上げていくことをやれたらと思っています。

芦田 次 に居宅支援連絡会から報告をお願いします。

石井な : (居宅支援連絡会)

お子 15ページをご覧ください。私は北部ヘルパーステーションのサービス提供責任者をしています。北部ヘルパーステーションでは、コロナ禍もあってサービス提供責任者も現場に入っています。そのような状況で前任から引継ぎを受けましたが、訪問介護と兼務でやっていて、他の事業所との横のつながりがなかなかできていませんでした。そのため、まずは居宅支援連絡会のことなどの説明から始め、横のつながりを作り、課題を抽出し、会をこれから作っていかうと考えています。各事業者は、ヘルパー不足、質の向上が課

題となっています。そのため、今後、会を催して情報共有や研修ができたらと思っています。

芦田 : (高次脳障がい児者サポート会議)

高次脳障がい児者サポート会議については、9月の家族交流会に7家族9名の方が参加されました。これまでで最多の参加となりました。今回参加が多かった理由は、市の広報に掲載されたというのがありますが、事業所から利用者に直接声をかけてもらったことが大きかったです。1月26日にも開催しますので、是非周知をよろしく願いいたします。家族交流会としては県内の家族会が休止となっていますので、この会議でもバックアップしていきたいと考えています。

移動支援については市がようやく改正を検討しているということで大変嬉しく思っています。今後もよりよい改正を継続して考えていただきたいと思っています。

次は、地域生活支援拠点等コーディネーターから報告をよろしく願いいたします。

久野 : (地域生活支援拠点等コーディネーター)

地域生活支援拠点等コーディネーターへの事前登録の申込みの状況については、現在233名が登録されています。今年度に関しては13名の新規登録がありましたが、年々新規の件数が減ってきています。この件に関しては、市の広報で周知をする予定となっています。

橘 : 次に精神障がい担当から報告させていただきます。現在、市川市には体験の機会の場合がないため、退院後に独居かグループホームかの判断するのは、院内でのアセスメントが頼りになっています。また、本人ができることとできないことは、院内では分からないことが多く、本人の意向が叶えづらいという課題があります。そんな中で、11月に江戸川区にある遊牧舎を見学し、12月に遊牧舎から講師を招いて研修を実施しました。遊牧舎は、江戸川区自立生活体験事業と地域移行支援を行っている事業者です。前者は江戸川区民が対象となっています。この施設は支給決定を受けていなくても利用可能です。サービス内容は独居の練習、レスパイト、アセスメントなどを行っています。部屋はとてもきれいで、家具家電、調味料、調理器具などが用意されていました。利用者はお金、着替え、薬があれば利用可能で、利用料は一泊300円でした。地域移行支援は、服薬管理や買い物同行、家事援助などの支援があります。遊牧舎の方が仰っていたのは、受給者証が必要ない

ので利用しやすく、そのため福祉サービスの入り口になることがあるとのことでした。12月の研修では、前半講義形式で行い、後半グループワークを行いました。その中で出た意見として、グループワーク体験宿泊は入居が前提で体験の中でアセスメントができること、江戸川区では受給者証不要で使いやすいこと、市川市で同じ事業を行うには仕組作りが必要であること、市川市でもできるとよいという意見がでました。

山田 : 身体障がいの課題としては、医療的ケア児の短期入所受入れ先についてがあります。社会福祉法人大久保学園は知的障がいの方が主な対象ですが、梨香園では重症心身障がい児者や医療的ケア児が通所しており、短期入所もあるので受け入れをしています。地域生活支援拠点等コーディネーターに事前登録しても短期入所の中で受入れということで、梨香園では障害者等緊急時受入施設入所支援事業補助金については会計処理上利用が難しく、梨香園職員と看護師が医療的ケアの方の事業所に出向いてアセスメントをしたり、自宅に訪問してご家族からケアの聴き取りをしたりしています。医療的ケアなので、主治医から指示書をもらって確認し、月に1回、短期入所を利用してもらって、一人ひとり丁寧に進めている状況です。まずはやれるところから事業所の協力を得ながら進めています。

鎌田 : (就労支援部会)

就労支援部会は、就労継続支援 A 型、就労継続支援 B 型、就労移行支援、ハローワークなどを含めて運営しています。特定短時間労働の課題について、令和6年4月から週労働時間数10時間以上20時間未満の方も雇用率に反映されることとなりましたが、7月時点では都内でわずかに求人がある程度になっています。事業所との併用が可能となっており、ご本人の不安もあると思いますが、ちゃんと働ける人は働いてほしいと思っています。

2つ目としては、就労継続支援 B 型では、通所者の高齢化により介護的支援を含まざるを得ない状況になっています。そのためどこかで支援を区切ることが、もしかしたら必要ではないかと思っています。

3つ目は、昨年度からの継続的な課題ですが、セルフプラン率の高さについてです。障害児相談支援から計画相談支援になったときに同一事業所で行えず、相談支援専門員の支援が切れてしまうという話も聞いているので、サポートの継続が大事という話が出ていました。

4つ目は、就労定着支援のコンサルティングについてです。就労後の支援を請け負うコンサルティング会社ができっていますが、会社のシステムとして

コンサルティングをしているので、何かあるとコンサルティングの担当者から半強制的に来てくださと言われてることがあるので、適切な対応を考えていきたいと思います。

次に20ページをお願いします。

①の就労継続支援 A 型事業所の閉鎖について、令和6年3月から7月までに全国で329事業所の閉鎖、4,000人以上が離職という報道がありました。9月時点で県内事業所に大きな影響はありませんが、今後影響が出る可能性があるので情報収集が必要だと考えています。就労継続支援 A 型事業所の支援を再考するというので、令和7年1月に近隣の事業所を集めた就労継続支援 A 型事業所の検討会を予定しています。

②の福祉的就労担当者会議については、主に就労継続支援 B 型事業所が集まる会議ですが、参加事業者が減少しているため、会議強化のためにも参加事業者を増やしていきたいと考えています。

③の複合的問題を抱える方の就労支援については、生活支援機関に上手くつながらず、事業所の業務が圧迫されてきています。

④の就労選択支援については、令和7年10月から始まるため、厚生労働省からの通知を待ちながら、今後市川市としてどのように対応していくのかを考えていく必要があると思います。

⑤の余暇活動については、就労者の通所後の過ごし方について情報提供方法が確立されていないことを議論しました。地域活動支援センターなどの他にも、余暇を過ごせる場所を増やすため、地域共生センターで行っているあいあい祭りなどの活動もやっています。今後もこういった活動を増やしていければと考えています。

徳江 : (子ども部会)

開催概要は、21ページに記載のとおりです。今の課題としては、相談支援専門員が不足しているため、情報共有や連携が図りにくい状況になっています。少子化やインクルージョン推進の流れの中で、保育園などにも支援が必要なお子さんが多くいらっしゃいます。一般施策に対する支援の助言等の必要性が高まっています。短期的な目標として、こども家庭センターの設置と機能の周知です。児童発達支援センターの中核機能の活用としては、令和6年4月に児童福祉法が改正され、児童発達支援センターがより中核的と位置付けられ、地域の関係機関との連携や支援体制構築が求められています。そのため、こども部会では児童発達支援センターの中核的機能を活用してもらおうための機能と役割について周知を図りました。これまでの通園と相談に

加えて、事業所などの支援者のスーパーバイズコンサルティング機能などに積極的に取り組み、地域支援の機能を果たしていきます。また相談支援専門員の不足については、増やすのは難しいですが、情報提供やセルフプランの方への相談をしたりしています。今年度初めて南部と北部に分けて、市川市の事業所合同説明会を開催し、それぞれ20事業所、100名以上の来場者がありました。その説明会の中で、ライフステージが変わるときに事業所探しに困っているということで、少しでもサポートができたかなと思っています。今後もセンターの中核機能発揮と、支援体制整備が求められているということで、支援が必要なお子さんが増えているので、状況の把握と改善を図っていきたいと考えています。

関連会議の開催概要に関しては、22ページに記載のとおりになります。

小泉 : (障害者団体連絡会)

令和6年度は、役員会を4回、本会議を3回実施しています。翌年の1月に役員会、2月に本会議を予定しています。5月の本会議では、今年1月の能登の地震について、DWATからの報告をしてもらい、地域防災課から昨年の防災訓練についての説明を受けました。9月には改正差別解消法について勉強会を実施しました。11月にも「各団体を知ろう!! 第一弾」などの勉強会を実施しました。1月18日土曜日に防災訓練があるということで、そこに参加してもらえるように周知しています。

会長 : メンタルヘルスのイベントのご説明をいただいてもよろしいでしょうか。

西野 : 10月10日のメンタルヘルスデーにあわせて市で開催されたメンタルヘルスのイベントについて説明します。10月6日日曜日に関係者と一般市民向けに「心の事を気にしてみませんか?」というイベントを開催しました。主催は市川コミュニティ精神保健医療福祉会議と松の木会になります。市川コミュニティ精神保健医療福祉会議は、千葉県の事業「マディソンモデル活用事業」を受託したことがきっかけでスタートしました。千葉県と姉妹都市である米国ウィスコンシン州デー郡マディソン市での精神保健医療福祉に関するコミュニティづくりを市川市で行ったものです。

朝比奈 : (基幹相談支援センター運営協議会)

時間の関係がありますので、手短かに説明いたします。基幹相談支援センター運営会議については、年度内にもう一度開催しないといけないと思っています。

ます。基幹相談支援センターの機能が少し変わったということと、相談支援専門員不足により、えくるにかなりの相談ニーズがきていて、支援者支援にシフトしていくためにどうしたらということがテーマとなりました。27ページに、えくるの取組予定がありますので、こちらを芦田委員にご説明いただいてもよろしいでしょうか。

芦田 : 令和6年度は、相談支援事業所支援に力をいれていこうと考えております。特に⑧については、地域の知恵を集めるケース相談会「いちの助」を企画しています。⑩については、えくる定例会議へ地域生活支援拠点等コーディネーターに参加をしていただこうと考えております。

会長 : ここまでの内容で質問はありますでしょうか。
時間が押していますので、なるべく簡潔にご質問・ご回答よろしくお願いいたします。

朝比奈 : 聞いていてお分かりかと思いますが、情報が多くて、消化していくことが難しいと思います。ポジティブな意味で、活動が活発になっていることはいいことだと思います。居宅支援連絡会、行動障がいの研修の話とか、色々やっている研修を全体で共有できれば、もう少し苦勞が報われるかなと思います。例えば、日中連絡会の応用行動分析の話も、一路会でやっているものですが、精神障がいや、発達障がい、障害者手帳をもっていない方の相談支援にも有効なため、もっと共有できると、負担が減るし活動に広がりが出るかなと思います。自立支援協議会でポータルサイトがあって事業所がそこにアクセスすると情報が取れるという仕組みができるといいなと思いました。知らない人がいっぱいいるので、そういったことを考える時期に来ているのではと思いました。

芦田 : 今日お配りした市川市の障害福祉についてですが、振り返りに活用していただければと思います。事業所も増え、ネットワークもできてきていて、いい方向に向かっていると考えています。課題もありまして、横のつながりが足りないところなどがあると思っています。市川市も自立支援協議会のあり方について立ち止まって評価してもいいのではと思っています。この会議で検討していけたらと思っています。

田中 : 感じたことは2つあります。障害児相談支援から計画相談支援に変わると

きに支援が途切れやすいという話はなるほどと思いました。現場だけでなく行政でも市長部局と教育部局が分かれています。表面的には一緒ですが、行政も特に教育関係者にこれからもっと参加してもらって切れ目をなくして欲しいと思いました。2 つ目は、日頃の活動には感謝していますが、社会は高齢化しているので、支援者の確保がなかなか厳しいと感じています。市民は福祉へのハードルが高く、言い方は悪いですが家族、友達に障がいがある人がいると障がいの分野に興味を持つ方が多いので、福祉への関わり方が難しいのではと考えています。そのため、どうしても介護の方に人材が寄ってしまうと思います。障がいに対する人材確保をどうするのか、と感じました。

会長 : 教育部局と市長部局との連携は、行政以外に事業者も課題を感じていると思います。今後も自立支援協議会でどこに溝があるかなど協議していきたいと思っています。支援者確保は大きなテーマで、各部会からの報告で共通しているのは、人材確保と相談支援専門員不足、事業所増加に伴うネットワークの構築をどうするのかの話が大きいと思います。ネットワークの話でいうと、えくるがつなげる役割があるのでどうしていくか考えないといけません。人材確保は、みなさんをお願いしたいと思います。学生や就労したばかりの人に、どういうことがあれば福祉職に就こうと思えるのかということを質問したところ、福祉の仕事に就こうと思っても一般企業と比べて内定が出るのが遅いという話がありました。その他にも、自分の暮らしを確保したいという話や、アルバイト、インターンなどの体験をするなど、一般企業でやることが福祉ではなぜないのかと意見がでているようです。これは実際に聞かないと分からない話になります。今後こういった内容を各部会から課題として挙げてもらうといいのではと思いました。

議題(4) 日中サービス支援型指定共同生活援助事業者に対する評価、要望、助言等について

会長 : 次に、議題(4)「日中サービス支援型指定共同生活援助事業者に対する評価、要望、助言等について」です。昨年度の自立支援協議会において、初めてこの評価を行いました。改めてまず、この議題の必要性について、事務局から簡単にご説明をお願いします。

事務局 : この議題について、事務局よりご説明します。28ページをお開きくださ

(丸島)

い。

障害福祉サービスの一つである「共同生活援助」とは、グループホームにおいて行われるサービスのことをいいますが、こちらにあるとおり、法令上、グループホームには3つの類型が定められております。

このうち、「日中サービス支援型指定共同生活援助」については、30ページをお願いします、こちらの第201条の10の第6項にありますとおり、「市町村自立支援協議会に対して定期的に事業の状況等を報告し、協議会から評価や要望や助言などを受けなければならない」ことが、事業者の責務として定められております。

この趣旨としては、このページの下のところにありますように、「事業所を地域に開かれたサービスとすることにより、サービスの質の確保を図ること」、とされております。

本市では、令和4年12月に初めて日中サービス支援型グループホームができましたことから、昨年度より、この協議会において評価を実施しております。

手続の流れとしましては、31ページにありますとおり、評価は年に1回以上行うものとなっております、また、34ページと35ページにありますとおり、評価を行った市町村協議会は、評価書を事業者に戻却するとともに、毎年12月末までに千葉県総合支援協議会に評価書の写しを提出することとなっております。

そのため、本日、もし評価書が固まりましたら、事務局から県へ速やかに評価書を提出する予定です。

本年度の評価は、芦田委員、岩崎委員が中心となり、生活支援部会と相談支援部会よりメンバーを数名選出し、2つのチームを作って、それぞれ2つの事業所を対象として、評価を行いました。

日中サービス支援型と他の類型との違いについては、29ページにまとめてありますのでご確認ください。以上です。

会長 : それでは、芦田委員、岩崎委員からご説明よろしく願いいたします。

芦田 : 食材料費の不正徴収の件も背景にありますので、今年度については、写真などで食事について確認しました。

Beans 本八幡については、地域に開かれた運営をされている印象を受けました。現状の支援をしてもらえたらと思います。ただ職員が大事だと思いますので、いい思いを持った職員が、代わってもその思いが引き継がれるよ

う、ネットワークに参加してほしいと提案しました。地域生活支援拠点等の事前登録がされていなかったが、緊急時の受入れもされているとのことでした。評価表にはありませんが、日中サービス支援型グループホームでしか受け入れることができない方への受け入れをお願いしたいと思っています。

次にグループホームワンコといっしょ市川大野についてです。一軒家を使った日中サービス支援型グループホームになります。そのため、アットホームな雰囲気ของกลุ่มホームで、近隣住民との関係も良好かなと思えました。ただ障がい特性に合わせた支援については頑張っているがなかなかうまくいっていない様子でした。短期入所の利用はないとのこと。まずは支援を丁寧にしてもらって短期入所の受入れも検討してほしいと思っています。また地域のネットワーク、研修会にも参加してほしいと思っています。

岩崎 : まずビーハック日中支援型障がい者グループホーム市川奉免町についてです。今回で2回目になります。詳細は評価シートをご覧ください。昨年課題がたくさんあり、お風呂関係、外国籍スタッフがいることなどがありました。お風呂は入浴回数がかなり改善された印象です。大きな課題としては朝夕の人員配置が難しいとのこと。それは引き続き、忙しい時間帯に手厚く配置してほしいと依頼しました。最近朝勤と夕勤が増えたという報告を聞いています。市川の方が半分近くだが、その他末期がんや難病の方も受け入れしているため、地域の方は喜んでいると思います。これからの問題ですが、運営会社がアニスピホールディングスから、11月から oneness に変更になりました。以前の管理者の考え方がかなり反映されていい感じになっていますが、管理者も変わって、前任の管理者の方は職員として配置されていますが、法人の考え次第で今後すこし状況が変わってくるかなと思えました。

次にリボングループホーム市川日中支援についてです。就労関係、訪問リハビリなどを行っています。リハビリに強い事業所が運営している会社で、身体とか高次脳の人を受けることが得意とのこと。課題としては、リハビリ色が強い印象で、医療ではなくもう少し福祉的寄り添い方の支援をしてほしいと感じました。生活介護の事業所なども展開しているので、自分の事業所の方だけではなく、もう少し地域との情報交換を増やしてほしいと思っています。大きな課題は近隣住民との関係のことです。近隣住民から説明会の開催を求められているようです。地域連携推進会議の開催が来年度から義務化されるので、それを通して地域への理解、繋がりを増やしてほしいと思っています。

個人的な意見ですが、両方とも、現場の支援の方は本当に一生懸命やっています。その頑張りに会社の方が答えていない印象を感じました。

会長 : 幹事会では、今後さらに日中サービス支援型グループホームが増えていくと想定しており、さらに事務負担が増えるので、評価の仕方も検討する必要があるという意見も出ています。

その他ご意見、ご質問はありますか。

: (なし)

会長 : こちらの案のとおりに県へ提出いたします。

以上で議事は終了しましたが、その他何かありますか。

朝比奈 : さきほど自立支援協議会の役割、機能、あり方について、検討が必要ではないという意見を出しましたが、日中サービス支援型グループホームの評価についてもどうするか検討せざるを得ない状況となっています。協議会は市が設置していますが、それぞれの民間の立場の幹事が中心に、事務局に協力しながら主体的に参加して成り立たせてきたのは市川市で誇るべきことだと思っています。今後の活動の在り方、全体会のありかたの協議の余地を残していただけたらと思います。

会長 : 協議ではなく報告会に近づいてしまっていて、集まってきた情報をどうしたら集約できるかなと思っています。この会議のあり方を検討すると同時に、今後もボリュームは増えていくので、ゴールを意識し、報告を圧縮し、こういうことをやっていきたいとか、行政と一緒にやれないかという協議がもっとできる時間を確保しないといけないかなと思います。今後も市と相談しながら幹事会で諮っていければと思います。

では、事務局から事務連絡はありますか。

事務局 : 長時間に渡り、ありがとうございました。次回の協議会の日時は未定です(丸島)ので、開催する場合は、また皆様にご連絡いたします。

会長 : 以上で、令和6年度第1回市川市自立支援協議会を閉会いたします。皆様、お疲れ様でした。